

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	王子光照苑		施設番号	K108
項目	前年度の評価結果に基づく現状分析 (平成29年度)	改善計画 (平成29年度末時点)	実施状況(予定を含む) (平成30年4月30日時点)	
稼働率向上のため、地元区等との綿密な連携について	重点目標として年間平均稼働率96%を掲げている。一方、昨年度は93.7%の実績である。定員50人で退所者が18人と多かったこと、1日平均約1.9人が入院していた点も要因と思われる。現在、入院者を少なくするため、訪問歯科との連携による誤嚥性肺炎の防止、各感染症の予防等、稼働率向上のため努力している。しかし、本年度も9月現在での退所者はすでに13人と厳しい背景がある。特養の入所調整は地元区が中心となって行っている。退所者が出た後の利用者の速やかな確保のため、地元区等との密接な連携等さらなる取り組みを期待したい。	区との連携はスムーズに行われていると思われるため、生活相談員及び介護支援専門員が区の調整担当者との会議に引き続き積極的に出席し、綿密な意見交換を行っていく。また、スムーズな入所については入所候補者(主に家族)のキャンセルが多いこともあることから、家族とのコンタクト手法の改善が必要。	1 実施済み ② 実施予定(平成30年10月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 ・毎月の入所調整会議に積極的に参加。また、他施設入所担当者と協議して入所調整の在り方について改善・見直しを求めていく。 ・スムーズな入所のために、候補者家族とのコンタクトをこまめに行い、不安などの除去に努める。そのためのコンタクト手法などを見直す。 ・新規入所については、面接から入所までの期間を2週間以内とするよう努める。	
文書、記録等の整備等について	昨年までISO9001の規定にそった書類の整備を行っていたが、今年度になってISOを辞退し、書類も含め施設独自の品質管理体制を図ることになった。現在、内容が重複する書類については精査し、これまで使用していた多数ある種類の書類を、苑の現状に即した内容とするように整理を図っている。現場で使う記録などは、職員の意見を取り入れ、わかりやすい表現にするなど、これまでのISOの仕様を参考に苑独自の書類に整理されると、さらに良いものになると思われる。	更新作業上および職員の負担軽減のため、平成29年3月31日付をもってISO認証の更新を辞退した。以後においては、ISOで培われた経験をもとに、王子光照苑独自の品質マネジメントを構築し、これまで同様マニュアルの見直し、記録類の整理を繰り返し行っていくこととする。乱雑となっているデータファイルなどにおいては、平成30年度中に整理を手掛けられるよう、各部署に通達、協力を依頼していく。	1 実施済み ② 実施予定(平成30年10月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 ・ICTシステムなどを導入。記録の簡易化と帳票の見直しを行う。 ・重複した記録やマニュアルをICTシステムの内容と関連付けて見直しを行う。	
個人情報保護に対する意識向上について	苑には、個人情報保護に関して「個人情報保護規定」、「個人情報開示規定」、「同意書」を整備し、利用者及び家族に説明し同意を得てから入所してもらっている。また、「王子光照苑コンプライアンスに関する行動憲章」、「王子光照苑職員倫理規程」で、職員の利用者に対する個人情報保護及び職務の倫理に関して明記している。一方、使用済み用紙の再利用では不注意な面が見受けられる。個人情報保護の更なる徹底に向けて、使用済み用紙の再利用方法について検討し、また、研修等を通して個人情報保護の意義について認識を深めることに期待したい。	利用者やご家族、および職員等の氏名など多少でも個人情報が記載されている書類については、再利用等使用しないよう徹底する。また、処分については廃棄ではなく裁断処分を行うこととする。	① 実施済み 2 実施予定 具体的には以下のとおりです。 ・報告書受理から早急に申し送りを行った。 ・次回内部監査にて同件においては重点確認項目とする。	

※この様式は、「平成29年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。